

# 長後まちだより

まちの輪・ひとの和・みどりの環

2015年7月10日

長後まちだより5号

発行/長後地区郷土づくり推進会議  
責任者/市川 勤  
事務局/長後市民センター  
電話/0466-44-1622  
FAX/0466-46-7034

## 郷土づくり推進会議と市長・副市長との意見交換を実施!!

長後地区郷土づくり推進会議では、平成27年5月22日(金)午後1時から、長後市民センターにおいて、鈴木市長・石井副市長・藤間副市長と「長後地区のまちづくりについて」意見交換を実施いたしました。以下、意見交換の主な質疑を掲載いたします。



### ビジョン1 子どもや高齢者が安心して歩けるまちを目指す。

住民目線で道路等の改善箇所を抽出する調査を実施し、「短期対応」、「長期対応」、「その他」等に整理した「長後地区道路安全実態報告書」を、平成26年3月24日に、市長・副市長並びに関係部局へ提出したことを踏まえて、

- Q・高倉下長後線の完成までのスケジュールについて聞きたい。
- A・現在、警察、小田急電鉄、神奈川県などとの協議を進めている。年末に予定されている長後地区全体集会では、具体的な計画の概要やスケジュールなどを説明できることを目指して取り組んでいる。
- Q・市道長後725号線(センター前通り)の歩道整備のスケジュールについて聞きたい。
- A・平成26年度に測量を実施し、現況の図面を作成した。今後は、この図面を用いて計画の検討を行うとともに警察や国・県との協議などを進めながら、地権者や住民の皆さんと意見交換を行う。

Q・市道長後725号線の歩道整備について、具体的にどのような協力を地元に見込めるか。

A・まちづくりの必要性を理解していただき、協力していただける雰囲気をつくってもらうことが重要である。ある程度の合意があれば事業も進みやすいし、そのために市としても地域の皆様と意見交換を重ねていきたい。

### ビジョン2 長後の歴史資源の活用を目指す。

長後地区は、古くから大山街道と滝山街道が交差する交通の要衝、宿場町として江戸時代から旅籠や商店が立ち並び、付近の農村の中心地として栄えるなど、豊かな歴史に支えられた地区であるとともに、多くの史跡もあることを踏まえて、

- Q・長後地区にある歴史資源を活用することにより、北部の観光の拠点となりうるかと考えるがどうか。
- A・藤沢のまちの変遷もあり、文化・歴史を大事にしたい。まちの資源を活かし特徴を持ったまちづくりをする必要がある。
- Q・(仮称)ふじさわ宿交流館の中に「長後コーナー」を設置し、長後の歴史資源のPRができないか。
- A・郷土歴史課を新設し、歴史的なものを映像等に収録し保存している。それらをふじさわ宿交流館にご来場の皆さんに見ていただくことを考えている。「長後コーナー」を設置することは困難と考えるが、長後地区で作成しているふるさと観光マップ「長後めぐり」や長後を紹介した「冊子」などを置くことは可能と考えている。

### ビジョン3 高齢者が安心して、元気に過ごすことができるまちを目指す。

長後地区には、「こぶし荘」や高齢者の居場所である「さんぼ庵」、そして今回、新たに設置される「地域の縁側」などがあるが、これらの施設から離れた場所に住んでいる高齢者はなかなか利用することが困難な状況であることを踏まえて、

- Q・高齢者と若い世代が交流し、簡単な食事もできるようなサロンがあればよいと思うが、どうか。
- A・地域で気軽に集い、支え合えるスペースとして地域の縁側事業をスタートしている。今年度前半7カ所、後半もいくつか開所予定である。長後地区でも意気込みができた段階で一緒にやっていただきたい。
- Q・担い手をどう育てるかという課題がある。地域の課題だとは思いますが、できるだけ行政のバックアップをお願いしたい。
- A・現在10カ所の縁側が社会福祉法人等により開設しているが、主体として、是非地域のほうから何ができるという発意をしていただきたい。

#### 郷土づくり推進会議新委員の紹介

下記の4名が新しく推進会議の委員となりました。よろしくお願ひします。

- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 荻田 准三 | 長後地区自治会連合会副会長      |
| 近藤 洋  | 長後地区民生委員児童委員協議会副会長 |
| 高橋 富夫 | 長後地区生活環境協議会会長      |
| 小宮 壽一 | 長後地区防災推進協議会会長      |

新しく長後地区郷土づくり推進会議のホームページができました。検索またはQRコードで、ぜひご覧ください。

長後郷土づくり

検索



## 「長後子育てメッセ」を開催



5月19日(火)午前10時～12時、長後市民センター2・3階にて「第4回長後子育てメッセ」を開催いたしました。

当日はあいにくの空模様だったのですが、親子あわせて206名の参加がありました。

親子体操と音楽教育法の一環のリトミックの会場では、かけ声や音楽に合わせ、親子で運動を楽しんでいました。コンサートや人形劇、おはなし会の会場では、子ども達がとても集中して鑑賞をしている姿が見られました。また、小麦粉粘土の会場、世界のおもちゃの会場では、夢中になって遊んでいる子ども達がいきました。

市の子育て応援コーナーでは、保健師による計測(身長・体重)や、絵本の紹介に加え、今年から新たに歯科相談コーナーを設け、お子さんの歯についての相談を受けていました。地産地消クッキングのコーナーでは、米粉を使ったケーキが振る舞われ、家庭でも作れるように、レシピが配布されました。

その他にも、様々な方の協力のもと、子育て世代を応援するための展示やブースが用意され、たくさんの笑顔が会場にはあふれていました。



### 編集後記

近頃日本列島が何やらおかしいと感じる人がいる。

私もその一人である。火山の噴火や地震が多発している。

ある地震学者によると、本来の日本列島ではこれが当たり前なのだ、ここ数十年は静か過ぎたと。

今更ながらに身の廻りを見てみると、りそな銀行の交差点の反対側に富士塚と呼ばれる小高い処がある。これは江戸時代に富士山が噴火した時の火山灰

を集めた処だとの伝承がある。歴史を身近に感じられる場所だ。

直接的な噴火による被害者の数を見ると、昨年の「御嶽山」と「口永良部島」との違いは歴然としている。後者は、日頃から噴火に備えて訓練などをしてきたと聞いた。

身近な歴史的遺産に目を向けて、われわれもその時に備えなければいけないと思うこの頃である。

(K・Y)